

アラウンド GOGO 55

なんだか実感わかない。
そろそろやばいけど
希望はあるかな

八反田史彦



このコーナーができた頃、親の介護がどうかか自分の老後がみたいな文章を読んでいて、正直言つて人ごとだったし、いざれ自分にもあてはまるのかも知れないけど、まあ、そのときになって考えればいいやと読み飛ばしていたかも知れない。今回、編集部から書けと言われて、そういうええそういう年だなと気づいたけど、まだ実感わかないんだよね。

確かに、一昨年から相次いで両親を亡くし、その間少しだけ介護の手伝いもしたけど。そして見た目はそれなりに白髪も増えれば皺も増えた。でも、気持ちとかやっつることとか何十年も前からほとんど変わらない感じがす

る。日々の授業づくりとか教育研究活動、職場づくりをはじめとした組合活動やら、保護者と一緒に進める学校増設運動とか、反原発に平和運動。やっつてゐることは二〇代の頃も今もずっとやっつてきたことだ。もちろん中身は違うし、質的な変化はあると思う。一生発達するしね。

10数年前、ぼくらの世代の仲間たちで、「今後どうなっちゃうんだろ。支えてくれてる団塊の世代がリタイアしたら、社会運動や労働組合運動の空洞化は避けられない」みたいなことをよく話していた。そしてその思いを基に、いろんなところで議論してきた。彼らだけでなく自分らも下の世代を引き上げられな

つたことを反省しつつ、今後どうするのかという話を語り合い工夫して実践してきた「つもり」だ。だけどあまりうまくいかなかったんじゃないのかって思ってた。

最近になって職場や組合で、自分の子どもくらいの青年たちが活躍する場面が増えてきた気がする。「やっつ」という感じかな。希望の。もちろん彼らがキラキラするのを、離れて見てるんじゃないかと、一緒にやるっていうのが楽しい。元気ももらえるし。つくづく「やっつぱり希望は若者だなあ」と、SEALSの集会でかつこいいコールに混ざりながら感じるアラウンド55の自分がいたりするわけです。

(宮城 特別支援学校教員)